

令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立弘道第一小学校 校長 鈴木 秀明

1 学校教育目標

心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人間尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。

○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- やさしい子：児童の読書に関する意欲を高め、想像力と幅広い知識を身に付けさせる。
 ○考える子：必要な情報を収集・選択・活用することができる能力を身に付け、自ら課題を解決しようとする主体的な力を育てる。(学習・情報センターとして)
 ○元気な子：子供の読書活動を支援し、読書の喜びや楽しさを味わわせることによって、望ましい読書習慣を身に付けるとともに、豊かな心情を育てる。(読書センターとして)
 ○児童の読書に対する意欲を高めるために、学校図書館及び、校内の図書に関わる環境を整える。

3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 9,939冊(蔵書基準冊数7,960冊) / 蔵書率124.8%(前年度末126.6%)										
	② 新規購入図書 493冊 / 廃棄図書 281冊 / 増減冊数 212冊										
	分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.0%	1.0%	7.0%	9.0%	12.0%	5.0%	3.0%	7.0%	6.0%	49.0%	
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%	
利活用の状況	① 開館時間：8:30～15:45										
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 22.2冊(前々年度末：22.2冊)										
	③ 1か月に2冊以上読む児童 78%(前々年度末：45.0%)										

(令和5年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 10,143冊(蔵書基準冊数7,980冊) / 蔵書率127.1%										
	② 新規購入図書 523冊 / 廃棄図書 340冊 / 増減冊数 183冊										
	分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2%	1%	7%	9%	13%	5%	3%	7%	6%	47%	
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%	
利活用の状況	① 開館時間：8:30～15:45 (前年度からの変更 あり・なし)										
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 34.1冊(前年度末：22.2冊)										
	③ 1か月に2冊以上読む児童 79.2%(前年度末：78%)										

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	① 易しい読み物に興味をもち、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 ② 学校図書館を利用の仕方を知り、読みたい本を探せるようにする。	
今年度の成果目標		達成基準
① 学校図書館を使う授業を月に4回程度行い、本を手にする機会を増やす。 ② 学校図書館の本を利用し、読書をする経験を重ねる。 ③ 学校図書館の利用の仕方について知る。		① 各クラス月4回以上、読書等の学習を学校図書館で行う。 ② 月に2冊以上本を読む。 ③ 学校図書館オリエンテーションを実施する。
目標達成状況	①月平均3.5回の利用があった。 ②月に2冊以上本を読んだ児童は、100%であった。 ③5月に図書館支援員によるオリエンテーションを行い、学校図書館利用の方法を知らせた。そのことにより、児童の利用意欲が高まった。	

第2学年	① 易しい読み物に興味をもち、楽しんで読書をしようとする態度を育てる。 ② 学校図書館を利用し、本や資料を活用しようにすることができるようにする。
今年度の成果目標 ① 興味のある本を探して、読書することができる。 ② 図鑑や科学的な本を読み、分かったことを友達に伝えることができる。 ③ 学校図書館の利用のきまりを守り、読書することができる。	達成基準 ① 各クラス月4回以上、読書等の学習を学校図書館で行う。 ② 月に2冊以上本を読む。 ③ 学校図書館オリエンテーションを実施する。
目標達成状況 ① 月平均3.4回の利用があった。 ② 月に2冊以上本を読んだ児童は、96.1%であった。 ③ 4月に図書館支援員によるオリエンテーションを行い、学校図書館利用の方法を知らせた。そのことにより、様々なジャンルの本を手にする児童が増えた。	
第3学年	① いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書をしようとする態度を育てる。 ② すすんで学校図書館を利用する態度を培い、楽しく資料や情報を集め、活用できるようにする。
今年度の成果目標 ① 興味のある本だけでなく、今まで興味のなかった本についても読書することができる。 ② 辞書や図鑑等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③ 学校図書館の利用のきまりを守り、読書することができる。	達成基準 ① 各クラス月4回以上、読書や探究活動の学習を学校図書館で行う。 ② 月に2冊以上本を読む。 ③ 学校図書館オリエンテーションを実施する。 ④ 「調べる学習コンクール」に参加する。
目標達成状況 ① 月平均1.4回の利用があった。より一層利用を啓発する必要がある。 ② 月に2冊以上本を読んだ児童は、83.9%であった。 ③ 4月に図書館支援員によるオリエンテーションを行い、学校図書館利用の方法を知らせた。そのことにより、調べ学習で学校図書館を使用しようとする意欲が高まった。 ④ 「調べる学習コンクール」に、3名参加した。	
第4学年	① いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書をしようとする態度を育てる。 ② すすんで学校図書館を利用する態度を培い、楽しく資料や情報を集め、活用できるようにする。
今年度の成果目標 ① 自分の興味のある本だけでなく、今まで興味のなかった本についても読書することができる。 ② 辞書や図鑑等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③ 学校図書館のより利用しやすい方法について考えることができる。	達成基準 ① 各クラス月3回以上、読書や探究活動の学習を学校図書館で行う。 ② 月に2冊以上本を読む。 ③ 学校図書館オリエンテーションを実施する。 ④ 「調べる学習コンクール」に参加する。
目標達成状況 ① 月平均4.9回の利用があった。 ② 月に2冊以上本を読んだ児童は、94%であった。 ③ 4月に図書館支援員によるオリエンテーションを行い、学校図書館利用の方法を知らせた。そのことにより、日本十進分類法に基づいて必要な書籍を探すことができるようになった。 ④ 「調べる学習コンクール」に、1名参加した。	
第5学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる。 ② 積極的に学校図書館を利用する態度を培い、計画的に資料や情報を集め、適切に活用できるようにする。

今年度の成果目標	達成基準
① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 複数の本や新聞等から分かったことをまとめることができる。 ③ 学校図書館のより利用しやすい方法について考えることができる。	① 各クラス月3回以上、読書や探求活動の学習について学校図書館を活用して行う。 ② 月に1冊以上本を読む。 ③ 「調べる学習コンクール」に参加する。 ④ 1回以上味見読書に取り組む。

目標達成状況
① 月平均1.7回の利用があった。特に探究活動での利用の啓発が必要である。 ② 月に2冊以上本を読んだ児童は、89.3%であった。 ③ 「調べる学習コンクール」に、10名参加した。 ④ 味見読書を1回行った。様々なジャンルの本に親しむことができた。

第6学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる。 ② 積極的に学校図書館を利用する態度を培い、計画的に資料や情報を集め、適切に活用できるようにする。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 複数の本や新聞等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③ 学校図書館のより利用しやすい方法について考え、友達に伝えることができる。	① 各クラス月3回以上、読書や探求活動の学習について学校図書館を活用して行う。 ② 月に1冊以上本を読む。 ③ 「調べる学習コンクール」に参加する。 ④ 1回以上味見読書に取り組む。

目標達成状況
① 月平均0.6回の利用があった。時間割や指導計画を調整し、学校図書館利用を啓発する必要がある。 ② 月に2冊以上本を読んだ児童は、57.8%であった。 ③ 「調べる学習コンクール」に、41名参加した。 ④ 味見読書を1回行った。様々なジャンルの本に親しむことができた。

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果

取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 ① 書架を増やし、児童がよりよく読める環境づくりをする。 ② 蔵書構成を念頭におき、そこから廃棄図書を確認させ、新規図書購入計画を作成する。	種別の割合を念頭に置いて蔵書を増やすことができた。特に2類を多く選書することで、2類の割合を増やすことができた。
【学校図書館支援員との連携・協働】 ① 学校図書館オリエンテーションの実施やブックトーク等、支援員の積極的な連携・協働に取り組む。 ② 調べ学習や図書委員会の活動、学習に必要な教材について積極的に学校図書館支援員と情報交換を行う。	本年度は、学校図書館支援員の業務で、児童の学習に直接関わる時間が増えた。また、図書委員会の活動等でも、専門性を生かした支援があり、児童の学校図書館活用意欲が高まった。
【その他】 調べる学習コンクールへの積極的な参加を児童に促す。	学校図書館に過年度の出展作品を展示したり、調べ学習を促す学習活動を取り入れたことで、児童の興味関心と資料活用能力を高めることができた。調べる学習コンクールへの参加作品数も前年度より増えた。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

一昨年度の児童一人当たりの貸出冊数 23.1 冊から 10 冊以上増え、今年度末には 34.1 冊にまで達することができた。また「1 ヶ月に 2 冊以上読む児童」の割合も昨年度 78%から今年度 88%と 10 ポイント上昇した。読書に親しむ児童は明らかに増加しているが、数値としての伸びにもやがて限界が訪れる。今後は本にあまり親しみのない児童を、いかに読書活動に取り込んでいくのが課題となってくる。ゲームや SNS に費やす時間の多い児童に対して、読書を促していく有効な改善方法を模索していきたい。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

昨年度に比べて「調べる学習コンクール」への参加が増えてきており、児童が本を用いて調べる方法や調べる手順についての指導が充実してきたものと思われる。特に 2 月はまとめとしての調べ学習を行う機会が多いことから、図書室利用の機会と貸出冊数が毎年のように増加している。分類別蔵書冊数を S L A 基準比率に近付けるように、今後も 9 類減・2 類増に取り組んでいただきたい。